



平成31年(家)18230号 後見開始の審判申立事件 (成年被後見人 西山 キミエ)

第1回 後見事務報告書 追加報告書

長崎家庭裁判所 御中

令和元年7月7日

長崎市万才町2番7号 松本ビル203

成年後見人 安部高樹

電話番号 095-826-4451



1. 本年6月3日に辻(シンニョウの点はひとつだけですが、ここでは便宜上「辻」の文字を使います)恭子氏から本人の預貯金通帳等の引継ぎを受けた際(辻恭子氏の夫辻俊雄氏も同席)、本件の申立人の申立ての動機を知っている辻恭子氏及び夫の俊雄氏(以下、「恭子氏ら」といいます。)から、なぜ本件の申立てをするようなことになったのか理解できない、本人のお金を不正に費消したようなことはなく、潔白である、その理由は、というような話を聞きました。
2. ただ、そのときの話は概要的な話であり、後見人は、恭子氏らから引き継いだ預貯金通帳等をもとに本人のお金の動きを調べ、質問しほうがよいと考えたことから、本年6月16日と18日の2回にわたって質問事項及び資料を恭子氏らに送り、その後、会ってお話を聞きたいと伝えました。6月25日に、恭子氏らに会って話を聞きました。
3. 6月25日に恭子氏らに会って聞いた話を以下にまとめます。なお、6月18日に送った質問事項のほうが6月16日に送った質問事項より時期的に前のことを聞いていますので、6月18日に送った質問事項(以下、「6月18日質問」といいます。)についての話をまず書きます。
4. 6月18日質問は、十八銀行住吉支店で取得した本人の同支店の普通預金口座の取引明細表(資料1)でお金の動きを見ると、ときにひと月に50万円、100万円と多額の金引き出されているので、このことについて恭子氏らが何か知っていることはないかという趣旨のものです。なお、本人は平成19年3月ころから現在入所中の「かいごの花みずき」(以下、「花みずき」といいます。)で暮らしており、この明細表に記載された期間(平成7年5月1日乃至平成17年8月29日)は、本人は長崎市泉二丁目の家で恭子氏らと同居しています。
5. この口座別取引明細(以下、「十八明細」といいます。)についての質問は、「資料2」のとおりです。
6. 十八明細についての質問の恭子氏らの回答も「資料3」の鉛筆で書いた文章のとおりですが、読みとりにくいところがあるのでそれをもとにしたものと、本年6月25日に恭子氏らと面談した際の話をもとにしたものをまとめたものは次のとおりです。

7. 平成7年5月ころは本人は78歳であり、種々の能力は問題なかった（なお、その後も本人の能力に問題がなかったと思われる証拠等は文章番号「36」で触れます）。このころから20年間近くは本人の能力が非常に低下するということとはなかった。
8. 平成19年に本人が花みずきに入所するまで、本人と恭子氏らは泉二丁目の家で一緒に生活していたが、生計は別だった。
9. 本人は、投資をしたり、長女和子や二男紘二のためにいろいろとお金を使うことがあったり、高価なものを買うこともあった。
10. 後見人の感想となりますが、上記のような説明から、たとい上記期間に十八銀行住吉支店の普通預金口座から多額の払戻し（たとえば、平成8年3月は288万円、平成10年1月は200万円、平成12年1月は251万円、平成12年3月は200万円）があったとしても、ただちにこれらに恭子氏らが関与しているということは非常に難しいといえます。
11. 次に、6月3日に恭子氏らと会った際に、花みずきに入居するまで本人が生活していた長崎市泉二丁目の家の建築代金等について話が出たので、そのことにまつわる質問とその回答について書きます。
12. 質問事項は、「資料4」の「1」のとおりです。これに対する恭子氏らの回答は、「資料5」に書かれているとおりですが、要点は次のとおりです。
13. 平成2年ころ、恭子氏らは辻俊雄氏所有の諫早ニュータウンにある家に住んでいた。本人は昭和54年（1979年）に夫留太郎が亡くなってから、長崎市泉町（当時）の家にひとり住んでいた。しかし、本人が70歳のころ（1987年ころ）トイレで倒れてからひとり暮らしを不安に思うようになった。本人は恭子氏らとの同居を望んだ。本人は長崎に住み慣れていたことから、長崎で同居することを希望した。平成2年ころ、泉町の家を解体し、新たに家を建て（土地は本人が夫留太郎から相続していた）本人と恭子氏らが同居することとした。
14. 建築代金は全部で約3000万円であり、これを本人と辻俊雄氏が半分ずつ出すことにした。本人の分1500万円は、本人が多良見町の土地等（「資料5」には諫早市多良見町の宅地を売ってと書いていますが、その後、辻俊雄氏と後見人が電話で話したところでは、もうひとつ当時の諫早市内の土地を売ったのではないかということです。それらの売買契約書も泉二丁目の家にあるようですが、現時点で後見人はそこまでは確認していません。必要であれば、資料としてそれらの売買契約書の提供も受けられるかと思います）を売って調達した。なお、本人は建物だけでなく、庭の整備にも興味があったので、それらの費用を加えて2000万円程度をこの新築時に支出したのではないかということです。辻俊雄氏は、自己資金と生活金融公庫からの借入で資金を用意したとのこと。
15. 建築代金を半分ずつ出しているのにもかかわらず、辻俊雄氏ひとりがこの家の所有権登記名義人となっているかという理由については、恭子氏らは、本人は死ぬまで恭子氏らに面倒をみてもらうつもりであり、恭子氏らもそれを承知したようであり、それらのこと

から本人の意向で辻俊雄氏単独の名義としたと説明しました。

16. この出資及び登記については、贈与の問題、特に当時贈与税を払ったのかという疑問等が残りますが、年齢的に（本人は当時73歳くらい）本人の能力に問題はなかったと思われる、何か詐欺・強迫といったようなことでもない限りは、本人が自発的に上記のようなことを望んだと考えるのは不自然ではないと思われます。
17. 次に、恭子氏らが繰越済の預金通帳を持っていた平成17年8月26日以降の十八銀行住吉支店の普通預金の動きで気になるものについて質問しました（資料4）。その質問の紙に恭子氏らが回答を書き込んだものは「資料5」です。
18. 「資料4」の「2(1)」平成19年6月12日の「キョウエイカサイFB」からの60万円の振込と6月26日の「共栄火災保険料支払い」60万円については、本人は、共栄火災海上保険の女性営業員と付き合いがあり、その関係で何か保険を使って貯蓄をするというようなことをしていたのではないかと、というのが恭子氏らの推測です。「資料4」の「2(4)」平成25年1月30日の「保険料支払い」50万円もそれに関係するだろうと恭子氏らはいいます。なお、質問事項作成の際には入金なので特に質問しませんでした。平成24年11月9日に、「キョウエイカサイFB」218万8200円の入金があり（資料6〔十八銀行住吉支店の繰越済通帳〕の平成24年11月9日参照）、これもこうした取引に関係するのではないかと恭子氏らはいい、自分たちにもよくわからないことだ、ということでした。
19. 平成24年、平成25年ごろに本人の意思能力がどのようなであったかということは、上記18の話やまたこれ以降の話に関係してきます。このころの意思能力がどの程度であったかについては、文章番号「36」に書きます。
20. 資料4の「2(2)」平成24年11月28日の「車代(1/3)」という書き込みがある100万円の出金については、回答（資料5）にも書かれていますが、辻俊雄氏が諸費用含めて300万円の自動車を買う際に、本人はかつて自動車で恭子氏らと一緒に買い物や花見、小旅行に行くことが多かったのも、本人自らその一部100万円を出していいと言われたので出金した、と恭子氏らは言っています。
21. ここで、「資料4」の「2(3)」で聞いている「平成25年1月22日の『家屋メンテナンス代(半)』という書き込みがある1,000,000円の出金」についての質問の前提を書いておきます。
22. 「資料6」の十八銀行住吉支店の繰越済通帳の平成25年1月22日に「トウキョウカイジョウニチドウ」から356万6140円、また同日、同じく「トウキョウカイジョウニチドウ」から150万円の入金があります。これらは、本人が平成24年3月ごろ、腰椎を圧迫骨折しようであり、花みずきが加入していた東京海上日動火災の保険金の下り、入金されたものとのことでした。
23. これが入金された後、平成25年1月22日から1月29日にかけて、「家屋メンテナンス代(半)」100万円や「葬儀準備(現金)」合計300万円が払い戻されています。

24. 「家屋メンテナンス代（半）」100万円については、「資料5」にもあるように、これは泉二丁目の家のモルタル塗装、瓦葺き替え等の費用の一部にあてるために、恭子氏らが本人の了承を得て払い戻したものとことです。
25. 平成25年1月23日乃至1月29日に「葬儀準備（現金）」として払い戻されている合計300万円についての恭子氏らによる説明は次のとおりです。
26. 恭子氏らは、親族をなくした人から、「亡くなるとその人の預貯金はすぐに凍結される。葬式代を故人の口座から引き出せなくて困った」という話を聞いたそうです（複数の人から聞いたと恭子氏は話していたと思います）。本人の年齢が年齢であることから（当時本人は95歳）、いつそのようなことになってもおかしくないので、お金を引き出せないと困ると考え、本人に相談し了解を得て、300万円を引き出し、現金で保管していたそうです。なお、その後、300万円のうち100万円を、平成31年3月27日に十八銀行住吉支店の本人名義の口座に入金し（資料6の該当年月日の取引）、また現金として保管していた残り200万円は本年6月3日に恭子氏らより後見人が受け取っています（その後、その時点での立替金分を引いて残りの198万8364円を十八銀行住吉支店の本人名義の普通預金口座に入金したことはすでにご報告したとおりです）。
27. 「資料5」の「2(5)」の「ガス暖房温風器」購入のためと思われる12万円の払戻しと「洗濯機」購入のためと思われる15万円の払戻しは、いずれも花みずきではなく、現在恭子氏らが住んでいる泉二丁目の家にこれらを据え付けるために購入する際に行ったものとのですが、「資料5」の回答にあるように、本人が花みずきで使っている布団やシーツ等の洗濯・乾燥に必要なものであり、本人の了承を得て、その代金を本人の口座から払い戻したということです。
28. 次に、「資料4」の「3」についての回答を書きます。これは、「資料7」の表をもとに質問したものです。なお、恭子氏らにはこの表をA3版で印刷して渡しましたが、これをA4版に縮小しても十分読めることから、資料としてはA4版のものを添付します。「資料7」は、花みずきの利用料への支払いやその他介護に係る費用支出のための預金口座からの払戻しが、十八銀行住吉、親和銀行チトセピア支店、親和銀行諫早支店の3店舗にまたがることからそれらを時系列で整理したものです。
29. この質問はいわば念のためにしたものでした。6月3日の聴き取りより、本人の花みずきの利用料が1か月あたり約25万円、その他の費用が約5万円ということでしたので、ひと月あたりの費用の合計を30万円として、それより多くの費用を花みずき及び介護費用として支出している月がどれほどあるかを表としてまとめ、それをもとに質問をしようとしたものでした。表を作成してみると、30万円を大きく超える月は少なく（一応ひと月あたり35万円を超える月について、赤い○印をつけています。なお、本件申立人やその家族の来崎のための支出が含まれる等といったことが通帳のメモにある場合には35万円を超えても赤い○印をつけていません）、せっかく表を作ったのだからこれをもとに質問してみようということで、「資料4」の「3」の質問をしたということに近い

です。

30. 回答としては「資料5」に書かれているもののほかに、ある月に多めに払い戻した場合、余った分を以後の月に使うというようなことがひとつの説明としてあったと思います。

31. またこれは「資料5」に書かれていますが、時期が現在に近づくにつれて花みずきの利用料や費用が増えているのは、以前は、紙パンツ、防水シート、トイレトペーパー、ティッシュ、手袋等が以前は花みずきで用意されていた（利用料に当然に含まれていた？）のが、ある時期より自己負担（花みずきに別途料金を支払って用意してもらうか、自分たちで購入して用意する）となったためという説明が得られました。

32. また、平成31年4月24日と令和元年5月22日にそれぞれ「花みずき」として35万円を払い戻しているのは、本件申立を知り、自分たちで本人の口座から払い戻すことができなくなることを考えて、花みずき利用料及びその他介護のための費用として、多めにお金を払い戻したということのようです。

33. なお、この件に関する資料として、「資料7」のほか、親和銀行チトセピア支店の取引明細及び普通預金通帳（資料8）及び親和銀行諫早支店の取引明細及び普通預金通帳（資料9）も添付します。

34. 次に「資料4」の「4」についてです。これは、本人が花に入居後も泉二丁目の家の水道代及び電気代が本人の十八銀行住吉支店の普通預金口座から振り替えられていたということについての質問です。資料5にもあるように、平成2年の入居時より電気代・水道代は本人が、ガス代は辻俊雄氏が負担する習慣となっており、本人が花みずき入居後もそれを続けていた。理由としては、本人の布製品の洗濯・乾燥にかなりの時間と費用を使うので、入居後もそのままいいと本人が了承していたとのこと。なお、本件の開始によって、今後はこうしたことは後見人が認めなくなるだろうということで、電気代・水道代も辻俊雄氏が払うようにした（契約を変更した）とのこと。です。

35. 次に「資料4」の「5」についてです。これは本人の花みずきへの入居後もNHKの受信料が本人の十八銀行住吉支店の普通預金口座から振り返られていたのでそれについての質問です。「資料5」にありますように、本人が映画が好きで、衛星放送の契約等を本人が率先して行い、そのためあって本人による支払いのままになっていたということのようです。これも本人の了承を得ていたと恭子氏らは言っていたかと思います。なお、これについても今後（年に1回の支払いなので）、恭子氏らは衛星放送に関心がないので、NHKとの契約内容を変え、辻俊雄氏の契約・支払いとするとのこと。です。

36. 上記「18」「20」「24」「26」「27」「32」「33」は、その当時、本人にどれほどの意思等の能力があったかということが関係してくると思います。本人の能力がほとんどないか、または非常に低下している場合には、恭子氏らによる説明をそのまま受け入れることは留保すべきだと思います。この点に関して、花みずきより資料として、平成24年3月乃至の平成25年3月の本人についての「施設介護経過表」（資料10）を添

付します。これをみる限り、後見人の感想としては、この時期に本人の能力がほとんどなかったか、または非常に低下していた、というようなことは決していうことができないのではないかと思います。

37. 次に、本件の直接の申立ての動機にはなっていませんが、本件申立代理人弁護士岩永隆之氏の平成31年4月8日付「上申書」に関連することとして、平成31年3月22日に死亡した本人の二男西山紘二氏（以下、「紘二氏」といいます。）の現金・預貯金について書きます。

38. 6月3日に恭子氏らと面会した際、紘二氏の解約済みの十八銀行住吉支店の総合口座通帳1冊（資料11）、同じくゆうちょ銀行の繰越済の総合口座通帳及び解約済みの総合通帳（資料13〔ゆうちょ銀行通帳2冊合わせて〕）を渡されました。

39. 本来、紘二氏の唯一の相続人である本人の成年後見人である本件後見人が紘二氏の預貯金について相続手続をするべきだと思いましたが、恭子氏は銀行の人の指示によって本人の委任状を取得し、問題なく解約手続することができたとのことです。なお、恭子氏は解約以前に、紘二氏の死の数日後、預貯金者が死亡すると預貯金を払い戻せなくなり、葬儀代等の支払いに困るという思い込みのもと、各口座から全額を払い戻したようです。「本人の委任状」が多少疑問ですが、金融機関がそのように指示し、それで解約できたのだとすれば、そのほかに怪しむべきところがなければ、本人の後見人としては特に問題とすべきところはないかと思います。

40. 恭子氏らによる紘二氏死後の現金・預貯金の収支報告は「資料13」のとおりです。なお、支出の部の「2. 葬儀後の納骨・法要に関わる費用」は、西山家がお墓を横浜に移したようで、横浜在住の本件申立人の息子と思われる西山円氏の預金口座に振り込んだということのようですが、本件申立人または西山円氏には確認はしていません。必要があれば確認します。なお、この65万円の振込（864円は振込手数料でしょう）については、「資料6」の平成31年4月1日に記載されています。

41. なお、紘二氏は少なくとも十数年前から医療法人協治会「紅葉病院」に入院していたようであり、同病院地域生活支援課の山下氏によれば、紘二氏入院中は、同病院が紘二氏の通帳を管理し、入出金をしていたということであり、少なくとも同病院に入院後は、紘二氏の財産の変動に恭子氏らが関与していたということは非常に考えにくいと思われます。

42. 以上、本人が口座を所有していると判明している預貯金口座の平成7年5月以降（十八銀行住吉支店については平成7年5月以降、親和銀行諫早支店については平成15年5月以降〔なお同行同支店については平成15年5月3日に初めて口座を開設したようです〕、親和銀行諫早支店については平成8年4月2日以降）の取引をもとに調査した結果、また紘二氏が口座を所有していたと判明している預貯金口座の平成16年5月以降（ゆうちょ銀行）または平成17年4月（十八銀行住吉支店）以降について調査した結果を多少後見人の感想を交えながら報告しました。感想としかいいようがありませんが、非

常に細かいお金の動きで不明な点はあるかもしれないけれど(しかし、これを今から追跡等して調査するのは至難のわざでしょう)、全体的に、恭子氏らが本人や紘二氏の財産から不当に利得を得たというようなことはいえないのではないかと思います。

43. 親和銀行各店の口座の平成19年3月ころ以前の動きや本人のゆうちょ銀行の口座の動きについては特に恭子氏らに質問していませんが、これは特段注目すべきお金の動きはないと後見人が判断したからです(6月28日付の添付資料と重複しますが、本人のゆうちょ銀行の通帳も「資料14」として添付します)。

44. なお、長崎銀行及びたちばな信用金庫に、本人及び紘二氏の取引が存在したことがなかったかと紹介したところ、取引はないという回答でした(資料15)。また、当然ながら、本人が口座を有していると判明している十八銀行及び親和銀行、ゆうちょ銀行については、現在判明している以外の口座は過去にもなかったということです。

45. 今後、現在取引明細等で取引の内容がわかっている時期よりも前の取引明細を各金融機関に請求したり、また紘二氏を含めて現在のところ取引の有無が判明しているところよりほかの金融機関に取引がなかったか照会することも考えられますが、現在入手している取引明細より前の取引明細はコンピュータ化されておらず、おそらく紙の資料を探してもらいそれをコピーしてもらう等かなりの時間と費用がかかると思います。また他の金融機関への照会については、費用はそれほどかかるわけではありませんが、徒労に終わるのではないかと予想します。なお、本人のゆうちょ銀行の口座は平成19年1月12日に新規に取引が始まり、以後のすべての取引は通帳に記帳されています。

46. 以上より、現時点では、恭子氏らが本人の意思に反してまたは本人の意思とは無関係に本人の財産を自己のものとして保管した、または費消したとみなし、そしてそれゆえにそうした財産を本人に返還せよと求めることはきわめて困難であると後見人は考えていることを報告します。

添付資料 目録

(令和元年7月8日付報告書)

1. 十八銀行住吉支店 普通預金 取引明細書
2. 辻恭子氏ら宛「お聞きしたいこと・確認させていただきたいこと 2」
3. 上記「2」の「お聞きしたいこと・確認させていただきたいこと 2」に対する辻恭子氏らの回答
4. 辻恭子氏ら宛「お聞きしたいこと・確認させていただきたいこと」
5. 上記「4」の「お聞きしたいこと・確認させていただきたいこと」に対する辻恭子氏らの回答
6. 十八銀行住吉支店普通預金の繰越済通帳
7. 花みずきへの支払及び介護費用表
8. 親和銀行チトセピア支店(チトセピア出張所)の取引明細書及び通帳
9. 親和銀行諫早支店の取引明細書及び通帳
10. 「かいごの花みずき」の施設介護経過表
11. 西山紘二の十八銀行住吉支店の通帳
12. 西山紘二のゆうちょ銀行の通帳
13. 辻恭子氏ら作成「故西山紘二氏 残務処理収支報告書」
14. ゆうちょ銀行の通帳(本人分) 平成19年1月2日新規作成
15. 長崎銀行及びたちばな信用金庫の個人情報開示回答書

原本を正写しました。

安 部 高 樹

